

記者会見 (37.5.9. 6:10 PM)

©2022 YHAL, YITP, Kyoto University
京都大学基礎物理学研究所 湯川記念館史料室

37.5.10 朝日新聞(朝)

37.5.10

会議を終って記者会見する知識人 向と左
から 田中樞次郎、田島英三、谷川徹三、坂田昌一、豊田利幸(事務局長、声明文を讀み上げている)、湯川秀樹、朝永振一郎、桑原武夫、三宅泰雄、大佛次郎、福島要一の各氏(会大基礎物理学研究所)



新聞



京大基礎物理学研究所での声明発表—声明文を讀みに(右へ)湯川、朝永、桑原、三宅、大仏、福島(左)

人類の破滅ふせぐ 理性と力を訴える

記者会見

【京都】記者会見が行われたのは京大基礎物理学研究所三階の講義室。二百人ほいは入れる研究所のなかでもいちばん広い室内は新聞、放送、テレビの関係者でいっぱいだった。午後五時四十分ごろ、待ちかねる報道陣の前に会議を告げるサインが来た。テレビの強いライトをあびて、湯川、朝永、坂田の三博士を真中に谷川、田島、田中、桑原、三宅、大佛、福島の十氏、都賀、宮沢の両氏は会見には出席しなかった。長い声明の全文を事務局の立教大学教授田利幸氏が讀上げる。日本の知性が頭腦をこぼした三日間の討論から生れた平和の訴え、それをみずからかみしめるまことに聞入る十氏の顔も紅潮していた。

「これだけの大きな問題をどうも三日間で論じつくすことはできないし、さらに多くの人をこの知恵と協力も必要です。故アイシン」

「ユタイン博士とラッセル博士の呼びかけで毎年世界各地で開かれていたパグウォッシュ科学者会議へも私たち日本人の声をもちつと私的な私にはなりません」と湯川博士。

短い会見の間、十人の科学者や知識人たちは繰り返しかえし「人類全体の破滅をふせぐ理性と力を訴えてください訴えていた」

c092-015-023

「この種の会合を我々だけが独占しようなどという気持は毛頭ない。このような声が高まってくれればと願っているのです」

c092-015-02